

# 林研センターだより 研究・普及情報誌



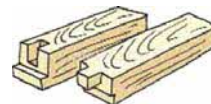
県の林業技術職員を対象とした木材や特用林産、林業機械の専門技術の習得 (写真：原木シイタケ栽培研修)



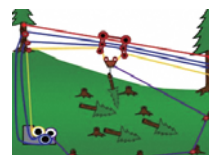
林業従事者を対象とした、林業機械操作の安全性と効率性の向上 (写真：森林作業道作設オペレーター研修)



林業従事者以外の方を対象に、森林・林業に関する理解を深めるとともに、未来の林業担い手を育成 (写真：竹炭焼き体験)



令和5年度のセンター主催の研修は、この3つの柱を軸に充実させ、更に安全にかつワクワクするような内容で実施してまいります。



## Contents

○林業研究情報	P 2
(育林環境部)	
・令和5年度育林環境部の研究の概要	
・センダンの芽かき高を変えると直径成長は促進されるか	
(林産加工部)	
・令和5年度林産加工部の研究の概要	
・ヒノキ大径材の強度性能について	
○林業普及最前線 (各普及指導区の見聞)	P 6
・センダン植栽技術向上研修会を開催 (宇城)	
・センダン植栽体験 (上益城)	
・造林補助及び森林経営計画に係る勉強会の開催 (菊池)	
・玉名地域林業技術合同研修会を開催 (玉名)	
・センダンに関する研修会の開催 (鹿本)	
・再造林推進のためのガイドラインを取り決め (阿蘇)	
・苗木生産技術研修会への活動支援 (八代)	
・ICTを活用したシカの捕獲システムの普及 (芦北)	
・森林サービス産業の創出を目指して (球磨)	
・センダン育成技術向上の研修会を開催 (天草)	
○特集	P11
・インターネットブラウザ上で崩れやすい地形の確認が可能となりました！ (森林整備課)	
・地域の森林づくりを支えるリーダー 指導林家・青年林業士の紹介 (森林整備課)	
・令和5年度 くまもと林業大学校研修コースの紹介 (林業振興課)	
・第28回 (令和4年度) 熊本県木材利用優良施設コンクール顕彰施設の紹介 (林業振興課)	
○センターあんない	P22
・林業機械安全操作研修を開催しました	
・技能講習等の案内	
・職員紹介	
○森林ノート	P24
・林業研究・研修センターの標本たち	

## 令和5年度（2023年度）育林環境部の研究の概要 森づくり技術に関する研究

### ②シカの確実な捕獲に向けた技術に関する研究

令和3～5年度  
高度な知識や技術を有する従事者の存在は捕獲対策において重要である。そうした従事者の育成・確保に必要な情報を提供するため、シカを確実に捕獲する手法や猟具の適正な選定に関する検証等を行う。  
（森税）（継続）



### ③皆伐により集積された末木枝条の危険性に関する調査

令和5～6年度  
熊本県では「災害に強い森林づくり」の実現に向けた取組みを推進しているところ。皆伐跡地に集積される末木枝条が災害を助長するおそれがあるか確認するため、末木枝条の集積状況について現地情報を収集整理するとともに、集積すべきでない場所や安全な集積方法等について提案する。  
（森税）（新規）



### その他

- 試験林・苗畑等管理
- ・菊陽苗畑
- ・舞の原試験展示園



### 優良系統創出・保存事業

毎年度  
ナンゴウヒと精英樹を交配し、選抜した次世代ヒノキやスギ在来品種を交配して創出した優良系統の保存を行う。  
（一財）（継続）



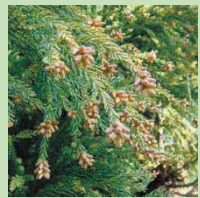
### スギエリートツリー等造林実証試験

令和2年度～  
造林地にエリートツリー由来特定母樹等のスギを植栽し、立地環境への適応性や成長特性等を調査してスギエリートツリー等の普及に向けた情報を提供する。  
（森税）（継続）



### ①シャカインの雄花着花性に関する研究

令和2～6年度  
熊本県の主要なスギ在来品種であるシャカインについて、花粉の発生源となる雄花の着花性を経年調査してその実態を明らかにし、伐期など施業指針を判断する基準の一つとする。  
（森税）（継続）



育林環境部は(1)森林の造成に関する研究、(2)森林の病虫獣害等の防止に関する研究、(3)森林の水土保全に関する研究の3分野の研究と造林品種の系統保存や創出に関する事業に取り組んでおり、その内容は次のとおりです。

### （1）森林の造成に関する研究

#### ①シャカインの雄花着花性に関する研究（R2～R6）

熊本県の主要なスギ在来品種であるシャカインについて、花粉の発生源となる雄花の着花量を、主要クローンを対象に年齢別に調査してその実態を解明し、施業指針等の判断基準の一つとして情報発信します。

### （2）森林の病虫獣害等の防止に関する研究

#### ②シカの確実な捕獲に向けた技術に関する研究（R3～R5）

シカの捕獲を効率化するため、シカの体格や行動特性などの情報を収集して適正な猟具の選定につなげ、確実な捕獲手法を検討します。

### （3）森林の水土保全に関する研究

#### ③皆伐により集積された末木枝条の危険性に関する調査（R5～R6）

人工林の皆伐に伴って集積される末木枝条が災

害を助長するおそれがあるかどうかを確認するため、現地事例を調査・整理し、末木枝条の安全な集積方法等を提案します。

### （4）造林品種の系統保存や創出に関する事業

これまでに取り組まれた育種事業を継承し、後代の成果につなげるため、次のような事業を行っています。

- ①県内各地から収集されたスギ・ヒノキ在来系統の遺伝子保存
- ②系統創出の材料となる優良系統母樹の管理・育成等
- ③県内のスギ在来品種に由来する精英樹を材料とした新たなスギ系統の創出と検定
- ④ナンゴウヒと心材色が赤いヒノキ精英樹との人工交配による新たな挿し木ヒノキ系統の創出と検定

これらの研究・事業のほか、初期成長が優れたスギ特定母樹のクローンを県内各地の造林地に試験植栽し、立地環境が成長に与える影響等について森林総合研究所林木育種センター九州育種場と共同で検証する取組みを行っています。

〔廣石 和昭〕

## センダンの芽かき高を変えると直径成長は促進されるか

熊本県では、早生広葉樹であるセンダンの研究に長年取り組み、その成果として「芽かき」による幹曲がり抑制する技術を開発しました。さらに、伐期を短縮できるよう芽かき高を変えた場合の成長等について研究を行っています。今回は、本紙No.91や令和4年度の当センター業務発表会でお知らせした内容の、その後の経過について報告します。

従来の芽かき技術は4m通直材の生産を想定したもので、芽かき実施高を4.5mとしていました。しかし、近年センダンの需要先として期待される家具材では2m通直材でも利用が可能であることが分かったため、芽かき実施高を2.4mとした場合の直径成長を比較する試験を行いました。

試験地は舞の原試験展示園（上益城郡甲佐町）に平成29年（2017年）3月に植栽したセンダンを、芽かき高を2.4mとした区と4.5mとした区の2つに分けて設定し、成長が休止する冬季に成長量を測

定しました（図-1）。

その結果、芽かき実施高を2.4mとした試験区は4.5mとした試験区よりも直径成長が良く、6年生時にはおよそ半数の個体が胸高直径25cm以上となりました（図-2）。

なお、芽かき実施高2.4mの試験区は、4.5mの試験区よりも早く樹冠が閉鎖したため、早期に間伐を検討する必要がありますが、適切に間伐を行ってこの直径成長が維持できれば、10年生に達するまでに末口径30cm以上の通直な丸太を得ることも期待できます。また、芽かき実施高を低くすることで高所での作業軽減につながり、よりセンダン造林に取り組みやすくなるものと考えられます。

この試験は今後も成長調査を継続して確実な効果が得られるか確認していきます。

〔廣石 和昭〕



図-1 試験地の設定状況

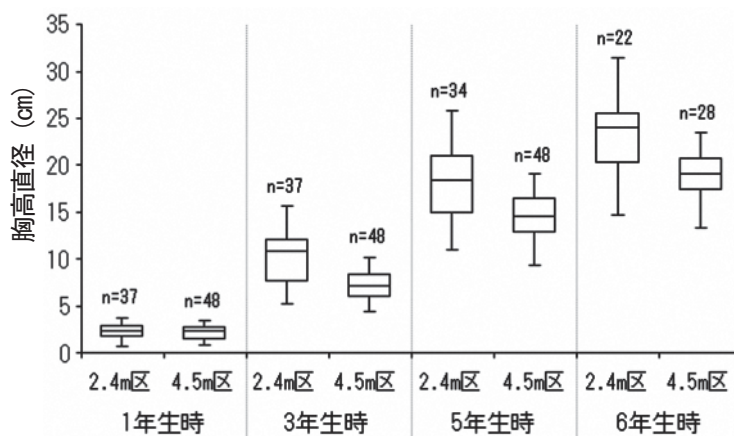


図-2 芽かき高の違いによる胸高直径の推移  
(nは各処理区の本数)

## 令和5年度（2023年度）林産加工部の研究の概要 県産木材の需要拡大に関する研究 特用林産物の生産力強化に関する研究

**①中大規模木造建築物用構造材の合理的な組合せ乾燥に関する研究**



R3～R5年度  
大径材から生産可能な大断面材に係る、蒸煮減圧処理・天然乾燥・高周波減圧乾燥等を組合せた、信頼性の高い乾燥材生産の技術開発（森林環境譲与税）（継続）

健全な森林のサイクル  
(林野庁HPより)



**③原木しいたけ栽培の省力化・効率化に関する研究**

R1～R5年度  
栽培工程の短縮や機械化の効果検証に基づく省力化と効率化の技術の開発（一般財源）（継続）



**県産木材の利活用支援**

「県産木材試験・利活用支援室」を窓口とした依頼試験・技術相談

- ・乾燥材生産やJAS認定取得に関する技術支援・性能評価
- ・「県産木材新製品の開発」、「新技術の開発」に取組む県内企業等に対する技術支援・性能評価
- ・公共施設木造化の技術支援・性能評価




### 林産加工部の研究概要

林産加工部では、県産木材の需要拡大及び特用林産物の生産力強化に関する研究に取り組んでおり、各研究課題の取組内容について紹介します。併せて、「県産木材試験・利活用支援室」の技術支援等の取組みを紹介します。

#### （1）県産木材の需要拡大に関する研究

人工林資源の高齢級化に伴いスギ・ヒノキ大径材から生産される断面の大きな製材品の効率的な乾燥や強度性能について、以下の研究を進めています。

##### ①中大規模木造建築物用構造材の合理的な組合せ乾燥に関する研究（R3～R5）

中大規模木造建築物の部材として、特に横架材として使用するスギ・ヒノキ平角材の信頼性を担保する合理的な乾燥技術を開発するため、「蒸煮減圧処理」と減圧下の内部加熱により短時間での仕上げ乾燥が可能な「高周波減圧乾燥」及び「天然乾燥」の組合せによる合理的な乾燥技術の研究に取り組めます。

##### ②県産ヒノキ中大径材を活用するための性能の明確化に関する研究（R2～R6）

大径化しつつあるヒノキ資源を有効活用するため、木材市場においてヒノキ中大径丸太の強度測

定、平角材など製材品の強度性能の明確化、幅広厚板を利用した「直貼り床」など新たな利用法の研究に取り組めます。

#### （2）特用林産物の生産力強化に関する研究

原木乾しいたけ生産者の高齢化など労働力低下による生産量の減少が懸念されることから、栽培作業の省力化や効率化の研究を進めています。

#### ③原木しいたけ栽培の省力化・効率化に関する研究（R1～R5）

原木しいたけ栽培工程の一部省略などによる収量の影響を把握し、最適な手法を開発するとともに、林業機械等の導入による省力化の検証に取り組めます。

#### （3）「県産木材試験・利活用支援室」の取組み

「県産木材試験・利活用支援室」では、以下の試験機を整備し、公共建築物等の木造化に必要な性能評価のための依頼試験のほか、木材・建築関係業界からの技術相談や依頼試験などの支援を行っています。

- ・実大木質材料万能試験機（曲げ 50 トン）
- ・面内せん断試験機（圧縮・引張 50 トン）
- ・実大木材高温乾燥機（収納奥行 8 m）

依頼試験や製品開発等をご検討の際はご相談ください。  
〔川中 守〕

# ヒノキ大径材の強度性能について

熊本県のヒノキ人工林は高齢級・大径化が進んでおり、その蓄積量は、おおよそ11 齢級（51～55 年生）の800 万m<sup>3</sup>をピークに、11 齢級以上が2,400 万m<sup>3</sup>と総蓄積量3,600 万m<sup>3</sup>の約7割も占めています（令和4年4月1日度時点）。この充実した森林資源を今後有効に活用していくための基礎資料を得ることを目的に、県内の原木市場においてヒノキ大径材の強度性能を調査しました。

## 1 調査の概要

今回は、県央、県北及び天草地域の原木市場に出材されたヒノキ大径材\*を対象に各地域それぞれ95本、100本及び42本の合計237本について調査を行いました（今後、県南でも同様の調査を実施する予定です）。調査内容は、丸太の密度を把握するために重量、長さ、元口径、末口径及び丸太の木口面をハンマーで叩くことによって得られる固有振動数を計測しました。調査は出材が多い時期を選び11月から3月に実施しました。なお、調査にあたって、熊本木材株式会社（県央）、阿蘇森林組合（県北）及び天草地域森林組合に御協力を賜りました。

\*素材の日本農林規格（JAS）において「大の素材」と規定されている末口径が30cm以上のものを大径材と呼んでいます。



重量測定の様子



固有振動数測定の様子

調査の実施状況

## 2 結果・考察

調査結果を下表に示します。強度を表すヤング係数は、3地域をまとめた全体平均が9.67kN/m<sup>3</sup>となり、これは過去に当センターが県内一円で調査したヒノキ中径材のヤング係数の平均値9.95kN/m<sup>3</sup>に近いものでした。次に地域別では、県央が8.88kN/m<sup>3</sup>、県北が10.42kN/m<sup>3</sup>、天草地域が9.67kN/m<sup>3</sup>となり違いがみられました。ヤング係数が高かった県北は、調査個所である阿蘇森林組合高森共販所に、強度性能に優れている地域特有の「ナンゴウヒ」が混在していたものと考えられます（丸太の状態ではナンゴウヒかの判別が困難）。また、最もヤング係数が低かった県央では末口径の平均が40.5cmとほかよりも特に大径化していたことが要因の一つと考えられます。

以上より、大径材でもこれまでと同程度の強度性能が期待でき、さらには、今回測定したヤング係数が大径材の平均的なヤング係数であることからすると、一般的に大径材の中心部分より強度性能が高い樹皮側ではこれまでと同等かそれ以上の強度性能をもつ製材品が期待できることが分かりました。

表 調査結果(上から全体平均、県央、県北、天草地域)

	材長 (cm)	重量 (kg)	末口径 (cm)	材積 (m <sup>3</sup> )	密度 (kg/m <sup>3</sup> )	ヤング係数 (kN/m <sup>3</sup> )
平均値	4136.8	336.5	37.1	0.55	624	9.67
最大値	4005.0	201.4	30.3	0.32	448	4.16
最小値	4940.0	614.0	53.5	1.19	761	14.10
標準偏差	101.0	77.2	4.5	0.16	57.3	1.68
変動係数	2.4	22.9	12.2	28.5	9.2	17.4

	材長 (cm)	重量 (kg)	末口径 (cm)	材積 (m <sup>3</sup> )	密度 (kg/m <sup>3</sup> )	ヤング係数 (kN/m <sup>3</sup> )
平均値	4200.7	388.3	40.5	0.67	585	8.88
最大値	4040.0	223.8	31.2	0.35	448	4.16
最小値	4940.0	614.0	53.5	1.19	695	14.10
標準偏差	129.6	73.3	3.8	0.15	49.3	1.91
変動係数	3.1	18.9	9.4	22.0	8.4	21.6

	材長 (cm)	重量 (kg)	末口径 (cm)	材積 (m <sup>3</sup> )	密度 (kg/m <sup>3</sup> )	ヤング係数 (kN/m <sup>3</sup> )
平均値	4103.4	319.6	35.9	0.49	654	10.42
最大値	4035.0	221.6	30.3	0.32	514	6.37
最小値	4240.0	495.8	49	0.93	735	12.70
標準偏差	34.2	58.1	3.4	0.10	46.3	1.31
変動係数	0.8	18.2	9.4	21.0	7.1	12.5

	材長 (cm)	重量 (kg)	末口径 (cm)	材積 (m <sup>3</sup> )	密度 (kg/m <sup>3</sup> )	ヤング係数 (kN/m <sup>3</sup> )
平均値	4071.9	259.4	32.2	0.41	641	9.67
最大値	4005.0	201.4	30.3	0.35	551	8.04
最小値	4145.0	325.8	36.3	0.54	761	12.25
標準偏差	29.9	28.9	1.5	0.04	46	0.94
変動係数	0.7	11.2	4.8	10.5	7.2	9.7

〔徳丸 善浩〕

## ■ 林業普及最前線

### 宇城普及指導区

## ～センダン植栽技術向上研修会を開催～

宇城地域森林・林業振興協議会林業振興部では、早生樹であるセンダンの植栽技術向上研修会を令和元年度から開催しています。

新型コロナウイルスの影響のため2年ぶりの開催となった今年度は、3月9日に管内の林研グループや林業普及協会会員、森林組合、市町職員参加のもと、宇城市豊野町と美里町洞岳の2箇所を実施しました。

はじめに林業普及指導員がセンダンの特徴や植栽から収穫に至るまでの育成方法、材の活用事例について説明しました。

宇城市豊野町では耕作放棄地に獣害防止ネットを設置し、260本を植栽しました。また、美里町洞岳では建設残土処理施設に80本を植栽し、植栽後シカ被害防止用の単木資材を設置しました。今回は例年より植栽本数が多く、土壌条件も異なっていたことから、植栽には苦労しましたが、参加者のセンダンに対する関心は非常に高いため、今後も継続して研修会を開催し、育成技術向上と規模拡大に繋げていきたいと思えます。

〔黒木 克宏〕



### 上益城普及指導区

## ～センダン植栽体験～

昨年度から荒廃農地におけるセンダン植栽の実施に向け調整を行っていた益城町において、令和5年2月20日～21日の2日間に渡りセンダン植栽を実施しました。

植栽箇所は、令和4年秋に農地転用手続きを終えた荒廃農地で、普及指導員が中心となり、益城町役場、緑川森林組合、國武林業から2日間で12名（16人日）が参加し、0.45haにセンダン約180本、シカ被害防止ネット約470mを設置しました。センダン苗は1～1.5mの苗で直根が成長していたため、植穴を深く掘る必要がありとても苦労しました。また、シカ被害防止ネットの設置は技術力を要することから、森林組合が設置しました。

益城町では初となるセンダンの植栽地です。荒廃農地の有効活用モデルとして、今後も芽かきの実施等を行い、センダンの普及に取り組んでいきます。

〔浦本 優子〕



## 菊池普及指導区

## ～造林補助及び森林経営計画に係る勉強会の開催～

シイタケ生産者が行うクヌギ林の下刈り・芽カギ作業について、造林補助制度を活用する場合の要件や注意点等に係る勉強会を、令和5年2月に菊池市で開催しました。

これは、手続きを一つ間違えると造林補助の要件を満たさなくなる場合もあり得ることから、管内のシイタケ生産者を対象として、森林経営計画の認定事務を行っている菊池市と合同で企画・開催したものです。

シイタケ生産の繁忙期でしたが、当日は30人を超える参加があり、生産者等の関心の高さが伺えました。

勉強会では、認定要件等の説明と併せて、令和5年度以降は下刈り補助は原則として植栽後3回までしか対象とならないことも周知しました。

今後とも、造林補助制度や森林経営計画制度の適正な運用に向け、関係者への情報提供や指導等を継続し、地元に着した普及活動に取り組む予定です。



勉強会の実施状況

〔入口 真行〕

## 玉名普及指導区

## ～玉名地域林業技術合同研修会を開催～

玉名地域森林・林業振興協議会（林業普及・林研グループ部会）と玉名地域林業振興連絡協議会が令和5年1月23日から24日にかけて合同で企画した、センダン育成の先進地である天草広域本部管内での研修会に普及員として参加しました。

1日目は、梅檀の未来研究会の福田代表から、センダンの育成方法や普及に向けた取組みについて講義をしていただき、参加者からも積極的な質問が出され、植栽の際は、深く植え、しっかりと周りを踏み固めるといった実践的な指導をいただきました。

2日目は、センダンのコンテナ苗を天草管内で唯一生産されている苗木屋ハラダと、令和4年2月に果樹園の跡地からセンダン林へ転換したモデル林の現地視察を行い、荒廃農地からセンダン林への転換を進めていくヒントが得られました。

玉名地域においては、令和3年度までに4か所でセンダンの植栽を行っていますが、この研修会を契機に、センダンの植栽がさらに拡大することを願います。



〔松野 雄三〕

荒廃農地への早生樹センダン植栽を推進するため、指導区内の林業研究グループ会員の方々等に対し、「センダンを植える前に知っておきたい農地の知識」「荒廃農地へのセンダン造林収支予測」の2題について研修会を開催しました。

農地の知識では、農地転用や非農地証明取得の見込みがある農地の種類など農地法関連の情報を周知し、収支予測では、20年での主伐を目標とした育成モデルを基に各作業経費の積上げと主間伐材売上を算出した収支事例について説明を行いました。



このほか、山鹿市のセンダン植栽地でも確認されつつあるシカ被害対策として、芽かき作業の支障になりくい防護資材の紹介もさせていただき、また、参加された方々からは、下刈りの省力化手法の提案や主伐までに追加で必要となる施業、バイオマス原料としての育成活用など様々な御意見がありました。今後も関係者の意見を踏まえながらセンダン産地化へ向けた取組みを進めていきます。

〔吉田 隆幸〕

令和4年度阿蘇地域林業担い手対策協議会総会時に協議会委員の方から「森林所有者や主伐事業者が、伐採後の再造林について早めに連絡をしてくれないため、再造林できないところが増えてきている」との問題提起がなされ、再造林を推進するためのガイドラインを協議会で取り決めることとし、他県における再造林推進に係る取組み等の情報収集を皮切りに、林業事業者及び管内市町村との意見調整を重ね令和4年12月20日に協議会で取り決めました。

また、再造林をより進めるためには、森林所有者や阿蘇地域で伐採や造林を行う協議会に属していない事業者に対してガイドラインの趣旨や伐採及び伐採後の造林の届出制度の周知を図る必要があることから、これらの内容を記載したパンフレットを作成しました。今後も協議会と連携し、伐採跡地の確実な再造林に向けて取り組んでいきたいと思ひます。

〔草野 僚一〕





## 八代普及指導区

## ～苗木生産技術研修会への活動支援～

管内では平成30年度から林研グループが主体となり、苗木生産に関する研修会を開催しています。その背景には、皆伐の増加とそれに伴う再生林の増加による苗木不足に対する懸念があげられます。これまでに苗木生産量拡大に向けた取組みとして、苗木生産技術に係る座学、他地域の苗木生産者との情報交換、穂採りや挿し穂体験を開催しております。本年度は11月にMスターコンテナ苗を開発された宮崎県林業技術センターと、Mスター苗及び露地苗を宮崎県児湯郡川南町で生産されている株式会社林田樹苗農園に出向き、開発の経緯、生産工程、生産技術等に係る講義を受けたほか、2月に管内で長年苗木生産を行われている廣岡さんから採穂や挿し木の技術指導を受けました。参加者からは「Mスターの生産方法が理解できた。」「他県品種との生産技術の違いに驚いた。」「穂の選定に奥深さを感じた。」といった声がありました。試行錯誤し苗木を生産している林研会員のやる気を活動の力に、引き続き支援していきます。



〔藤村 栄春〕

## 芦北普及指導区

## ～ICTを活用したシカの捕獲システムの普及～

水保・芦北地域においては、シカによる農林業被害が激増しており、その対策が喫緊の課題となっています。

当地域では令和2年度から管内の有害鳥獣被害対策協議会とともに、猟友会や農林業者等に対してシカを積極的に捕獲するよう働きかけ、また技術指導等の支援を行ってきました。その結果、シカの捕獲数は令和2年度の約1,000頭から令和4年度は約2,000頭と2倍に増えましたが、令和2年度当初に目指していた3,000頭/年には未だ及ばない状況であります。

そこで、他地域で既にも実績のある情報通信技術（以下、ICTという。）を活用した効率的かつ効果的な捕獲システムを地域へ早期に普及させるため、11月から3月にかけて管内全域でICT捕獲システムの実証試験を実施し、3月に農林業者や猟友会等の関係者を集めた勉強会でその試験結果を報告しました。

今後は実証試験の成果を地域に広く発信し、ICTを活用した捕獲システムが管内各地域に早期に実装されるよう関係者への働きかけていきたいと思っております。



〔前田 勇平〕

## ～森林サービス産業の創出を目指して～

地域の森林資源の有効活用と新たな産業の創出による地域活性化を目的に、「人吉球磨森林サービス産業協議会」が発足しました。会員には球磨管内市町村の観光担当者及び林務担当者が名を連ね、令和4年度は「森林サービス産業を知ること」と「活用可能なコンテンツ（ヒト・モノ・コト）の把握」を中心に活動しました。

森林サービス産業先進地の情報収集、先進地視察（佐賀県）及び地域内のコンテンツ探しとそれらを活用した森林サービス産業の展開方法を会員と情報共有したところ、観光担当者から、既存の取組のフィールドを森林に置き換えてチャレンジしてみたいと前向きなご意見をいただくなど、森林空間の活用可能性を高める第一歩を踏み出しています。

今後は、産業化の核となるべく地域の関係者への森林サービス産業の展開を目指し、より具体的な普及活動を実施していく予定です。



〔上田 菜央子〕

## ～センダン育成技術向上の研修会を開催～

天草地域ではセンダンの産地化のため、令和17年度までにセンダン造林面積54.7haを目指し、地域住民や関係者に対して植栽や芽かき指導に取り組んでいます。令和5年3月に天草市宮地岳町にある荒廃農地において、センダンモデル林の造成と合わせて、林業事業者や荒廃農地所有者に対してセンダンの植栽研修を行いました。

当該活動では、柃櫚の未来研究会代表の福田氏からセンダンを用材として利用するためには植栽後2年間の芽かきが必要であるが、「成長が良いことから下刈り期間がスギやヒノキよりも短いこと」、「15～20年で材の生産ができるようになること」、「下刈りなどで誤伐しても夏場に芽が出るので心配いらないこと」、「家具や合板業界から安定供給を求める声が高まっていること」等の説明がありました。

所有者からは、「荒廃農地の土地利用ができるようになった。センダンの芽かきや下刈りに取り組んでみたい」といった意見がありました。

今後もセンダンの産地化に向けて地域住民や関係者とのつながりを大事にしていく必要があると感じました。



〔小嶋 研二郎〕

# インターネットブラウザ上で崩れやすい地形の確認が可能となりました！ ～災害に強い森林づくりに向けた取組みの推進～

県では、令和2年7月豪雨以降、県土保全と両立する林業を目指す「災害のリスクを軽減させる森林づくり」の取組みを進めており、令和4年4月には、森林所有者や林業関係者向けに、崩れやすい地形の調べ方やその対応についてわかりやすくまとめた「林地保全に配慮した林業のガイドライン（<https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/90/136372.html>）」を作成しました。

今回、ガイドラインで示した、図面で崩れやすい地形を把握するために必要な「CS立体図<sup>(※1)</sup>」、「傾斜区分図<sup>(※2)</sup>」を作成し、インターネットブラウザ上で閲覧できる「**林地保全に配慮した林業のガイドラインデジタルマップ**」を公開しました。

このシステムでは、「CS立体図」、「傾斜区分図」のほか、国土地理院が提供している「標準地図」、「空中写真」や「地質図」なども見ることができ、どんな場所でもパソコンやスマートフォンの画面で確認できるようになったことで、崩れやすい地形の把握が容易になり、林地保全に配慮した森林の伐採や道づくりでの活用が期待されます。

今後は、閲覧できる図面を増やすなど、より森林所有者や林業関係者が「災害のリスクを軽減させる森林づくり」を取組むうえで役立つシステムとして充実していく予定です。

(※1) CS立体図：詳細な地形の凹凸を視覚的・直感的に判読できる図面 (※2) 傾斜区分図：地形の傾斜を段階的に色分けした図面

## 【林地保全に配慮した林業のガイドラインデジタルマップ】

URL：<https://www.rinchihozenmap-kumamoto.jp>




### 「林地保全に配慮した林業のガイドラインデジタルマップ」

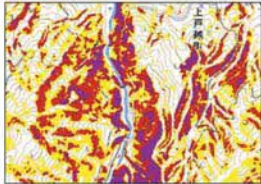
**【デジタルマップの特徴】**

- 一般的な地形図の作成では10m間隔の標高データを使用するのに対し、航空レーザーで測量した0.5m間隔の標高データにより、県森林面積の94%をカバーする「CS立体図」、「傾斜区分図」を作成し、インターネットでの閲覧により、詳細な地形の把握が可能
- 作成した「CS立体図」、「傾斜区分図」のほか、国土地理院から公開されている「標準地図」、「空中写真」等を、インターネット上で同時に閲覧したり、各図面を重ねて閲覧することができ、崩れやすい地形が容易に把握可能
- パソコンだけでなく、スマートフォンやタブレットでも閲覧することができ、現場で各図面を閲覧しながら周囲の状況を確認することが可能


**【デジタルマップの概要】**




【CS立体図】




【傾斜区分図】



【地形図】  
(出典:地理院タイル)





【空中写真】  
(出典:地理院タイル)





【その他図面】

事務所確認

- ・どこでも各図面を確認することが可能
- ・各図面を重ね合わせて表示することが可能 (透過度も調整可能)
- ・スマートフォンでは現在の地点表示が可能

現場確認

〔森林整備課〕

## ～地域の森林づくりを支えるリーダー～

### 指導林家・青年林業士の紹介

林業やシイタケ栽培などに関し、高度な知識や技術、熱意を持ち、地域の模範となる森林づくりや林業経営を実践している方々を、「指導林家」として、また、地域の森林づくりに強い熱意と意欲を持ち、今後、地域リーダーとしての活躍が期待される方々を「青年林業士」として、地元市町村の推薦を受けて、熊本県が認定しています。それぞれ林業技術の普及や森林林業後継者の育成指導、地域林業のリーダーや林業普及指導員のパートナーとして日々活躍されています。

「林業の経営や技術などについて、詳しい方々のアドバイスが欲しい。」と思われる方、是非一度、あなたの町の指導林家・青年林業士を訪ねてみられてはどうでしょうか。

指導林家・青年林業士については、お近くの広域本部（地域振興局）林務課、または県庁森林整備課までお問い合わせください。

〔森林整備課〕

## 指導林家（29名）



秋吉 郁夫さん

昭和43年生まれ  
菊池市在住

20歳で家業を継ぎ、自家山林の保育と併せて素材生産業を営むなど専門林家として林業に取り組んでいる。高性能林業機械を積極的に導入し、効率化と労働安全の確保を図っている。



小川 智英さん

昭和29年生まれ  
菊池市在住

長伐期施業による優良大径材生産やセンダンの育成など、低コスト林業を実践している。また、シイタケ生産の高収益化を図るなどの功績も高く評価され、農林水産大臣賞を始め数々の賞を受賞している。



坂口 優一さん

昭和29年生まれ  
菊池市在住

労働安全衛生に関する意識が高く、また、所有林において積極的な森林作業路の整備や列状間伐、シイタケ栽培における散水施設や乾燥機の導入など、林業経営における地域での先駆的な取り組みを多く実践している。



坂本 信介さん

昭和32年生まれ  
菊池市在住

昭和54年に家業の苗木生産業を継いで以降、優良苗生産のための技術研鑽に熱意を持って取り組んでいる。既存の機械に改良を重ね、独自に創意工夫することで作業の効率化、労力の省力化に努めている。



**中村 和幸さん**  
昭和32年生まれ  
菊池市在住

林内集材路網を整備し、低コスト林業による優良大径材生産を実践している。また、シイタケ原木を自家生産しており、クヌギ林を適正に管理・整備する姿は地域の模範となっている。



**中村 文彦さん**  
昭和43年生まれ  
菊池市在住

主にシイタケ生産を営み、先代が確立した生産技術を継承しつつも人工ホダ場やハウスなどの施設栽培による生産性の向上と省力化に取り組むなど、シイタケ生産に関する地域のリーダーとして活躍している。



**水上 博司さん**  
昭和26年生まれ  
菊池市在住

植栽から素材生産まで一貫した森林施業を行っている。素材生産では高性能林業機械を用いて安全性の向上と低コスト化を両立させるなど、多数の従業員とともに持続可能な林業経営を実践している。



**宮本 廣親さん**  
昭和27年生まれ  
菊池市在住

所有山林において、林業、シイタケ栽培、クリ等の果樹栽培など多角的な複合経営を行っている。保育にも情熱を持っており、丁寧に間伐・枝打ち等が行われた山林は地域の模範となっている。



**武藤 規尋さん**  
昭和24年生まれ  
菊池市在住

所有山林での素材生産に加え、シイタケ栽培や稲作を営んでいる。間伐や枝打ち等に各種補助金等をうまく活用し、計画的で安定した林業経営を実践するなど、その姿は地域の模範となっている。



**村上 正八さん**  
昭和48年生まれ  
菊池市在住

林業、シイタケ栽培を専業としており、自身の山林経営と併せ管理委託や素材生産も請負って実施している。長伐期施業を経営方針としており、丁寧に管理された山林は地域の模範となっている。



**山代 正治さん**  
昭和24年生まれ  
菊池市在住

共有林や区有林の管理と併せて、素材生産、サカキ等の林間栽培、シイタケ生産、黒牛・赤牛の繁殖、飼料米の生産等安定した複合経営を実践し、地域林業のリーダー的存在となっている。



**菅 晃生さん**  
昭和18年生まれ  
阿蘇市在住

所有林において長伐期施業など持続可能な林業経営を実践し、地域林業の模範となる適正に管理された森林の維持・造成を行うとともに、地域林業の振興や技術普及にも努めている。



**河津 宗範さん**  
昭和37年生まれ  
阿蘇郡南小国町在住

所有林において長伐期施業による持続可能な林業経営を実践し、路網整備にも力を入れるなど他の見本となる林業経営を行うとともに、阿蘇森林組代表理事組合長を務めるなど地域でのリーダーシップを発揮している。



**馬原 益夫さん**  
昭和19年生まれ  
阿蘇郡高森町在住

優良大径材生産を行うとともに、地域のヒノキ特産品種であるナンゴウヒの普及に力を注いでおり、自ら植栽したナンゴウヒ林分から優良な林木を選定・育成しクローン方式による林業を実践している。



**井 晴生さん**  
昭和25年生まれ  
阿蘇郡産山村在住

所有林において長伐期施業による持続可能な林業経営を実践するとともに、森林施業の集約化を図るための地区座談会において主導的役割を果たすなど、地域の林業振興に尽力している。



**河津 剛さん**  
昭和46年生まれ  
阿蘇郡小国町在住

循環型施業を実施しつつ、大部分は大径材生産を目標とした間伐施業を行うとともに、低コスト化や森林管理のための積極的な路網整備や機械化による生産性の向上に取り組んでいる。



**北里 栄敏さん**  
昭和47年生まれ  
阿蘇郡小国町在住

皆伐を行わず長伐期化を念頭に置いた間伐施業を中心に、優良な大径材生産を目標とした林業経営を行うとともに、小国町森林組代表理事組合長を務めるなど地域でのリーダーシップを発揮している。



**今村 輝宏さん**  
昭和47年生まれ  
阿蘇郡南阿蘇村在住

所有山林に加え受託による村内民有林の森林整備を行い、持続可能な林業経営を実践するとともに、庭園管理や病害虫防除など樹木管理に関する知識・技術を有し、一般家庭からの依頼にも対応している。



**甲斐 精二さん**  
昭和32年生まれ  
上益城郡山都町在住

株式会社山都興産の代表取締役を務められており、薪生産や苗木生産を中心に地域林業の牽引役として、林業担い手育成や地域活性化に貢献している。



**栗屋 克範さん**  
昭和27年生まれ  
上益城郡山都町在住

優良品種による大径材生産など、高付加価値材生産を目標とした林業経営を実践。その経営手法は地域の模範となっており、地域林業振興の主導者として活躍している。



**吉井 和久さん**  
昭和35年生まれ  
水俣市在住

路網の高密度化や低コスト化間伐を率先して実践し、地域の模範となる林業経営に取り組んでいる。



**池松 重孝さん**  
昭和27年生まれ  
葦北郡芦北町在住

路網の高密度化による低コスト林業を実践するなど、その経営手法は地域の規範となっている。また、産直住宅の推進など地域材の利用促進など地域材の利用促進にも積極的に取り組んでいる。



**一藤 泰助さん**  
昭和32年生まれ  
葦北郡芦北町在住

長伐期施業による優良大径材生産や路網を整備し施業の効率化、低コスト化を図るなど持続可能な林業経営を実践。林業経営推奨行事では、その実績が評価され林野庁長官賞を受賞した。



**堀田 将豊さん**  
昭和56年生まれ  
葦北郡津奈木町在住

所有山林に加え受託による素材生産業を営み、高性能林業機械による皆伐施業の低コスト化と確実な植栽により、持続可能な林業経営を実践している。



**浅香 康昌さん**  
昭和33年生まれ  
人吉市在住

種菌メーカーの研究者として培った知識と技術を生かしたシイタケ生産を行い、数々の品評会で賞を受賞するなど、技術や経営手法は地域の模範となっている。



**平野 隆三さん**  
昭和35年生まれ  
人吉市在住

林業機械販売会社を営み、講習会等の講師として機械の安全な使い方の普及や担い手を育成する一方で、所有林では架線による間伐中心の林業を行っている。



**木下 丈二さん**  
昭和34年生まれ  
球磨郡五木村在住

地元林研クラブの活動にも積極的に関わるなど、地域の林業振興に熱心に取り組み、高い志のもと、林業を核として村づくりを推進している。



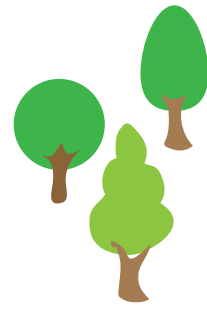
**原田 幸雄さん**  
昭和27年生まれ  
天草市在住

優良材生産を目標とした林業経営を実践し、その経営手法は地域の模範となっている。また、長年、優良樹苗の生産にも取り組み、地域林業の発展に寄与している。



**福田 国弘さん**  
昭和35年生まれ  
天草郡苓北町在住

所有山林において優良材生産を目標とした施業を実践し、林間を利用してセンリョウやシイタケを生産するなど、その林業経営手法は地域の模範となっている。また、梅檀の未来研究会の代表としてセンダンの普及を図っている。



## 青年林業士(29名)



**宮下 智浩さん**  
昭和48年生まれ  
宇土市在住

森林組合職員として、若手従事者を指導する傍ら、シャカインの高品質材生産や早生樹の育成研究にもいち早く取り組み、技術の普及とともに地域リーダーとして活躍している。



**池田 太一さん**  
昭和54年生まれ  
玉名郡和水町在住

林業会社を経営。林業で培った伐採技術とクライミングの技術を応用した高所作業を中心に特殊伐採を行っている。県内外から講師依頼も寄せられ技術指導にも積極的に取り組んでいる。



**野中 優佳さん**  
平成3年生まれ  
山鹿市在住

林業会社を起業し、5代目林業家として代々受け継いできた自家所有林の育成・利用に加え、人工造林等の請負や木材加工販売にも意欲的に取り組んでおり、全国的にも数少ない女性林業家として期待されている。



**田中 翔さん**  
昭和63年生まれ  
山鹿市在住

林業会社に勤務し、高い安全意識と伐倒技術を生かした後進育成や新技術の導入実証等に積極的に取り組むほか、「森のお兄さん」として、森林環境教育や森林空間活用にも取り組んでいる。



**江上 寿浩さん**  
昭和53年生まれ  
菊池市在住

実家は代々林業を営んでおり、その堅実な施業技術を継承しながら機械化にも積極的に取り組んでいる。旭志林業研究グループの中でも一目置かれる存在であり、今後は地域林業のリーダーとしても活躍が期待される。



**原田 理さん**  
昭和47年生まれ  
菊池市在住

奈良県から菊池市に移住し、現在は自己所有林のほか森林所有者からの施業受託により山林経営を行っている。「森の担い手」や「伐木チャンピオンシップ審判員」に認定されるなど、幅広く活動している。





水上 兼司郎さん

昭和54年生まれ

菊池市在住

山林経営を主体とし、シイタケ栽培等にも取り組んでいる。三重県速見林業で修業を積み、習得した技術を生かして効率化と労働安全の確保を図っている。森林施業プランナー研修の受講など自己研鑽にも意欲的である。



水口 勝之さん

昭和53年生まれ

菊池市在住

クヌギ林を育成し、自家生産した原木によるシイタケ栽培を主体とした林業経営を実践している。また、森林組合の作業員として主に林産班で作業した経験を生かし、自己所有林の維持管理を積極的に行なっている。



山本 樹紀さん

昭和52年生まれ

菊池市在住

自己所有林と併せて他の所有者からも森林施業を受託して持続可能な山林経営を行っている。施業の効率化と労働安全の推進に取り組むその姿は地域林業の先導者として活躍が期待されている。



山本 善久さん

昭和57年生まれ

菊池市在住

山林経営を主体としてシイタケ栽培や稲作も行っている。森林組合の作業班として主に林産班で作業した経験を生かし、自己所有林の維持管理を計画的、積極的に行うなど、地域のリーダー的存在である。



石原 敬さん

昭和58年生まれ

菊池市在住

シイタケ生産を主体とした林業経営を行っており、生産技術の習得に努めながら堅実な経営を実行している。自己所有林の維持管理を積極的に行うなど、地域林業のリーダーとしての活躍が期待される。



緒方 元一さん

昭和51年生まれ

合志市在住

森林施業と併せてシイタケ生産の複合的な経営を行っている。森林組合の作業班長として林産事業に従事した経験もあり、伐採技術・高性能林業機械操作技術ともに高く、地域林業のリーダーとしての活躍が期待される。



岩村 雄太さん

昭和51年生まれ

阿蘇市在住

所有林において長伐期を念頭においた森林施業と農業を合わせた複合的な経営を行われている。また、林研グループ関係の複数の役職を引き受けるなど地域林業の活性化にも貢献している。



菅 晃太郎さん

昭和62年生まれ

阿蘇市在住

令和2年度に新会社を設立し、従業員と所有林の森林施業と請負による間伐等の森林整備を行うとともに、林研グループ活動にも積極的に参加し自身の技術向上と地域林業の活性化に取り組んでいる。



**河津 太郎さん**  
昭和60年生まれ  
阿蘇郡南小国町在住

所有林において長伐期を念頭においた優良な大径材の生産を目標とした林業経営を行うとともに、原木シイタケや栗などの特用林産物の生産と農業を併せた複合的な経営を行っている。



**板東 博暁さん**  
昭和52年生まれ  
阿蘇郡南阿蘇村在住

NPO法人の理事長として経営の指揮をとり、阿蘇地域の森林整備の推進に多大な貢献をするとともに、地域林業の振興を目的とした様々な活動にも積極的に協力・参加している。



**國武 智仁さん**  
平成3年生まれ  
上益城郡御船町在住

國武林業の経営者として、特殊伐採や森林整備に手腕を振るっている。自らJLCに出場されるなど、県内の林業労働災害防止の為、努力を惜しまないカラーハーブの社長。



**亀田 洋さん**  
昭和58年生まれ  
八代市在住

実家の林業会社を継いで林業従事者を育成している。また、高性能林業機械の積極的な導入を行い、労働安全性の向上や生産性の効率化に取り組んでいる。



**大川 信也さん**  
昭和45年生まれ  
水俣市在住

有限会社 大川林業 代表。  
高性能林業機械を多数所有し、効率化された素材生産活動を実践している。近年は苗木生産事業にも進出し、持続可能な林業経営のパイオニアとして期待が寄せられている。



**柏木 光裕さん**  
昭和55年生まれ  
水俣市在住

代々続く合同会社 柏木農林の若きリーダー。代々引き継がれている森林を荒らさない手間暇かけた林業経営は地元の住民にも安心感を与えている。地域では数少ない架線集材の技術をもつ。



**坂本 剛さん**  
昭和54年生まれ  
水俣市在住

合同会社 WoodOne 代表。  
独自に森林経営計画を策定して持続可能な林業経営を進めるほか、地域の学校で木育活動も進めており、素材生産業にとられない活動が地域の規範となっている。



**黒木 裕一朗さん**  
昭和50年生まれ  
球磨郡多良木町在住

地元の林業会社に従事し、自身の林業技術の研鑽と、若手林業従事者の育成に積極的に取り組むなど、地域の林業技術者としてのリーダー的役割を担っている。



**小川 慶真さん**  
昭和57年生まれ  
球磨郡水上村在住

安定した雇用計画をもとに経営手腕を発揮し、造林作業が中心の会社を設立、経営している。自らの高い技術力をもとに若手指導にも力を入れている。



**小村 哲典さん**  
昭和57年生まれ  
球磨郡相良村在住

県内でもトップクラスの苗木生産会社の4代目として先代の経営技術を引き継ぎつつ、森林整備部門を新たに設置するなど経営ビジョンに優れ、地域活動にも積極的に取り組んでいる。



**犬童 大輔さん**  
昭和49年生まれ  
球磨郡球磨村在住

林業の幅広い技術と知識と持ちつつ、森林組合の参事として管理監督を行い優れた経営センスを発揮している。代々受け継がれている所有林の整備にも意欲的に取り組んでいる。



**竹井 裕二さん**  
平成3年生まれ  
天草市在住

地元森林組合の職員として、集約化や森林整備を進めるために、所有者の探索や間伐などの施業提案を積極的に進め、意欲的に地域林業の振興を図っている。



**田中 諒さん**  
昭和61年生まれ  
天草市在住

家業である林業事業体の代表として、素材生産、支障木伐採、竹林管理、炭焼き木工品製作などを行っている傍ら、センダン育成の普及啓発を行う梅檀の未来研究会の副会長を務めている。



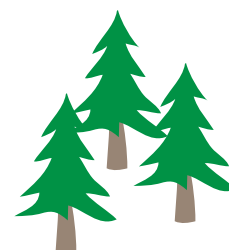
**本田 亮さん**  
昭和53年生まれ  
天草市在住

林業事業体の代表として、森林整備の総括や担い手の育成・教育などを担当し、地域の森林整備や林業後継者の育成に貢献する傍ら、天草地域の松林を保全するボランティア活動にも積極的に参加している。



**田口 竜司さん**  
昭和62年生まれ  
上天草市在住

地元森林組合の職員として、現場作業の経験を活かしながら集約化や森林整備を推進し、森林施業プランナーとしても、森林経営計画の管理を通じて森林所有者への丁寧な対応により信頼関係の構築に取り組んでいる。



# 令和5年度 くまもと林業大学校研修コースの紹介



くまもと林業大学校では、林業に必要な技術と現場力を兼ね備えた即戦力となる人材の育成、地域林業のリーダーの養成等により、くまもとの森林・林業を守りつなぐ林業担い手の確保・育成を図っています。

令和5年度からは研修コースの一部を次のとおり再編し、担い手の確保・育成の取組みを更に充実させていくこととしています。



▲ 座学の様子



▲ 実習（ドローン操作）の様子



▲ 実習（チェーンソー操作）の様子

## ＜再編の主なポイント＞

- ① 林業体験・学習コースに、本格就業前に、林業の作業実態や就労条件等に関して 理解を深めるとともに、自身の林業への適性を見極める機会を設けるための「トライアル」を新設しました。
- ② 転職希望者等の速やかな林業就業のニーズに応えるため、新規就業者育成コース「短期課程」の研修日数や受入れ人数を拡充し、取得できる資格数を2種類から6種類に増やしました。

「くまもと林業大学校」の研修コース（R5）									
新規就業者育成コース		従事者育成コース			自伐林家育成コース		林業体験・学習コース		
長期課程	短期課程	基礎課程	指導者育成課程	女性担い手育成研修	基礎講座	林研グループ等養成	高校生体験研修	トライアル	
200日間に林業技術者の即戦力を育成	速やかに林業に就業できる人材を育成	第1線で効率的な作業ができる人材を育成	指導者の育成 ①リーダー基礎 ②リーダー実践 ③指導者育成	女性担い手のリーダー育成	林業基礎講座にて自伐林家を育成	地域のリーダーとなる人材を育成	林業担い手に魅力を感じることのできる人材を育成	事業体での就業体験の機会を提供	
新規就業希望者	新規就業希望者等	従事者（初級者）	従事者（中上級者）	女性担い手	自伐林家（希望者）	林業研究グループ等	高校生	林業就業に興味のある一般の方	
日数	200日	23日	40日	20日	6日	—	—	15日	3日
人数	20人	20人	50人	10人	50人	—	—	120人	30人

くまもと林業大学校の情報は、こちらのホームページに掲載しています。

【検索キーワード：くまもと林業大学校オフィシャルサイト】



問合せ先：農林水産部森林局林業振興課 林業担い手・特産振興班（096 - 333 - 2444）

〔林業振興課〕

## 第28回（令和4年度） 熊本県木材利用優良施設コンクール顕彰施設の紹介

県及び木材関係4団体では、県産木材の利用普及と需要拡大を目的に、県産木材を利用して建てられた施設のうち優れた施設を顕彰しています。

令和4年度は9施設の応募があり、以下の6施設が顕彰されました。

### <熊本県賞>



「八代市庁舎」(八代市)

### <熊本県森林組合連合会賞>



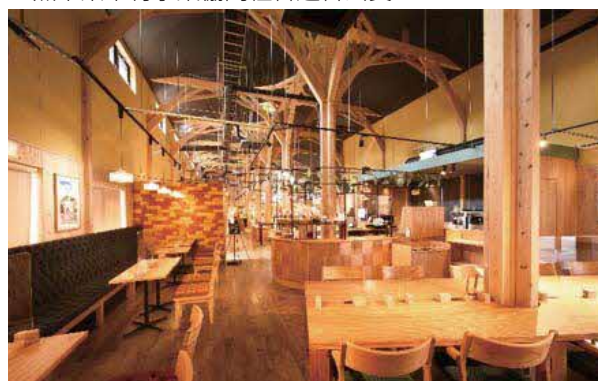
「地獄温泉 青風荘」(南阿蘇村)

### <熊本県木材協会連合会賞>



「嘉島西小学校増築校舎」(嘉島町)

### <熊本県木材事業協同組合連合会賞>



「Shop&Cafe ミナマータ」(水俣市)

### <くまもと県産材振興会賞>



「南関町庁舎」(南関町)

### <特別賞>



「douce Nucca (ドゥース・ヌッカ)」(阿蘇市)

過去の顕彰施設の情報等を熊本県庁のホームページに掲載しています。

【検索キーワード：熊本県木材利用優良施設コンクール】

問合せ先：農林水産部森林局林業振興課くまもと木材利活用推進班（096 - 333 - 2448）

〔林業振興課〕

## ～林業機械安全操作研修を開催しました～

林業研究・研修センターでは、林業機械（チェーンソー、林業用グラップルなど）を安全に操作してもらうことを目的に、以下のようなさまざまな方を対象にした操作研修を実施しています。このような研修機会を広げることで、事故のない林業現場の実現を目指します。



①熊本県林業技術職員を対象とした林業用グラップル操作研修（令和4年8月）



②県民の方を対象としたチェーンソー操作研修（令和4年8月）



③県民の方を対象としたチェーンソーメンテナンス研修（令和4年9月）



④熊本県立八代農業高校泉分校の生徒を対象とした林業用グラップル操作研修（令和4年11月）



⑤熊本県林業技術職員を対象としたチェーンソー操作研修（令和4年12月）



⑥熊本県立南稜高校の生徒を対象としたチェーンソー操作研修（令和5年1月）

〔高田 琢也〕

～森林や木材生産の現場で働く人を支援します～

## 令和5年度（2023年度）林業技能講習等を実施します

（講習日：6月～9月 場所：林業研究・研修センター内）

当センターでは、県内の森林・林業・木材産業の現場で働く方々を対象に、労働安全衛生法に基づき、林業や木材産業に就業するにあたって、特に必要な6つの法定講習等（①小型移動式クレーン、②玉掛け、③フォークリフト運転、④はい作業主任者、⑤車両系建設機械運転、⑥林業架線作業主任者）を実施しています。

現在（4月中旬）受講生の募集を開始していますので、受講ご希望の方は、熊本県林業研究・研修センターもしくは最寄りの熊本県広域本部（地域振興局）林務課までお問い合わせください。

なお、技能講習等の詳細については、熊本県ホームページの当センター「研修・情報発信」にて掲載中です。

〔森 博昭〕

## 職員紹介 4月の定期人事異動により、新たに着任した4名の職員を紹介します。



審議員兼次長兼総務課長

深田 学

担当業務 センターの事務総括

前任地 県南広域本部

趣味・特技

昔）ラグビー、読書、映画

今）散歩、庭・畑作り

### 本人のコメント

宇城農林部、森林整備課と3度目の林務とのご縁。海辺育ちで毎日が海水浴でしたが、今は、森林浴を楽しむ日々です。

「日新日々新」の気持ちで精励します。



審議員兼次長兼企画研修部長

平生 信男

担当業務 センターの技術総括

前任地 森林整備課

趣味・特技

家庭菜園、散歩、

自分で作った野菜の料理

### 本人のコメント

自宅から近いこともあり林研センターでの勤務を長年希望していました。この度着任できてとても嬉しく思っています。



育林環境部 研究参事

草野 僚一

担当業務 森林保護、育種

前任地 阿蘇地域振興局

趣味・特技

林道の草刈り

### 本人のコメント

12年ぶりに研究の仕事をする事となりました。前回担当していた林木育種に加えて、シカ等の森林被害の防除・捕獲の研究も担当します。もう若くないので、職務遂行については不安で一杯ですが、県民の皆様のお役に立てるよう、現場第一で頑張ります。



林産加工部 研究参事

入口 真行

担当業務 特用林産

前任地 県北広域本部

趣味・特技

ナンプレ（パズル）、晩酌

### 本人のコメント

林業研究・研修センターでの勤務は初めてですが、なるべく早く業務に慣れて、皆様のお役に立てるよう頑張りたいと思います。

今後ともよろしくお願いします。



# 森林ノート

# 林業研究・研修センター の標本たち

昭和37年3月に設置された林業研究・研修センターは、多くの資料を収蔵しています。そのなかから、過去に収集した標本を御紹介します。

## 1 岩石標本

当センター駐車場の北側、ブロックの上に置かれています。残念ながら一部は標示板が失われていますが、残っている標示を見てみると、実に様々な場所から、多様な岩石が収集されたことが分かります。山地災害が頻発している昨今、これらの岩石標本を見ていると「災害に強い森林づくり」を進めていくために地質や岩石のことを学ぶ必要を感じます。



## 2 菌類標本

本館2階資料標本室のショウケースに収蔵されている「きのこ」の標本で112個(種不明含む)が現存しており、およそ50年前に採取されています。菌類は森林の分解者として重要な存在ですが、時には樹木の病気や木材の腐朽などを引き起こしたりもします。これらの標本は菌類の不思議なかたちに驚きを感じさせるばかりでなく、何か調べものがあったときに役に立ちます。



## 3 植物標本

本館2階の造林研究室と図書室に収蔵されており、木本類に限らず草本類も収集されています。これらの標本は学習材料としての利用のほか、将来は植物分布や環境の変化を知るための資料として価値を持つ可能性があり、大事に保存していく必要があります。



こうした標本を収集するのは大変な作業だったろうと思います。現場から壊れないように持ち帰り、クリーニングや保存処理を施してラベルや目録を整備するといった作業を地道に行って、貴重な資料を残してくれたことをありがたく思います。

〔林業研究・研修センター 育林環境部長 廣石 和昭〕

### ■ 編集発行 熊本県林業研究・研修センター

〒860-0862 熊本市中央区黒髪8丁目222-2

代表(総務課) TEL 096-339-2221

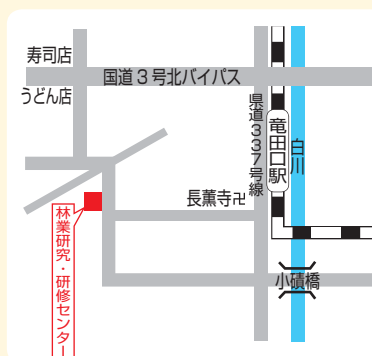
企画研修部 TEL 096-339-2222

育林環境部 TEL 096-339-2241

林産加工部 TEL 096-339-2242

FAX 096-338-3508

### ■ 発行日 令和5年(2023年)6月



発行者：熊本県  
所 属：林業研究・研修センター  
発行年度：令和5年(2023年)度